

令和5年度 いのちの授業 事例集（高校）【地歴・公民】

掲載数

23

管轄	学年	教科等	テーマ	内容	参考事項（講師・教材等）
1 横須賀市	高1	地歴 ・公民 ・社会	生命倫理の考え方	「現代社会の諸課題とそのとらえ方」の単元における「生命倫理」において、生命の大切さを扱った。生命誕生に関する受精卵診断や出生前診断の是非。尊厳死や安楽死をどう考えるかといった課題を生徒とともに考えていった。	本校の教諭が授業を行った。教科書の資料が中心であったが、適宜資料を補充し授業を展開した。
2 神奈川県	高複合	地歴 ・公民 ・社会	生命の倫理 人権はいつからあるのか	ヒトはいつ人になるのか。人はいつから人権があるのかをテーマに理科分野と地理歴史・公民分野からアプローチして、言語活動を中心とした授業を展開した。90分間のうち、講義を30分程度におさえて、60分程度を思考活動、表現活動の時間にあてた。	教員自作のプリント、スライド
3 神奈川県	高3	地歴 ・公民 ・社会	都市災害から命を守る	江戸時代の明暦の大火や目黒行人坂の大火などの実状と、幕府による災害対策（町火消・火除け地等）などについて調べ、現代の我々が学べる所や今だからこそできる対策について考えた。また、スマホやPC端末などを利用してスライドを作成し、自分たちの考えを発表した。	授業内
4 神奈川県	高1	地歴 ・公民 ・社会	防災	学校周辺の防災上の危険地域や避難場所の確認を行い、命を守るための防災意識の向上を図った。	ハザードマップポータルサイト 災害対応カードゲーム教材「クロスロード」
5 神奈川県	高1	地歴 ・公民 ・社会	防災小説「巨大地震が起きた。どう行動する？」	未来に起こるであろう超巨大地震、それに伴う津波や原子力発電所の事故、火山噴火などの災害が、日時を決めて実際に起きたと想定し、その時自分は何処にいて、どんな状況で、どんな行動をとっているのか、自分の状況を家族とどのようにして共有したのか等、実際の行動や体験、見える風景やその時考えている事を小説にし、お互いの体験をグループで共有しあった。守るものがあると行動を起こせることを小説にしている生徒が多く、災害を自分事としてとらえることができている。実際の災害は生徒の想定をはるかに超える可能性があるが、それも想定内にする事を目指した。	社会科教諭・参考 慶応義塾大学の准教授の取り組み
6 神奈川県	高3	地歴 ・公民 ・社会	尊厳死と安楽死	倫理の授業において、尊厳死や安楽死、ターミナルケア等について学習し、命の大切さを伝えた。	

7	神奈川県	高複合	地歴 ・公民 ・社会	死生観	国際理解の授業の一環で世界の宗教の死生観について扱った。生徒それぞれの死生観の違いがあることをICT教材で共有し、世界でも信じる宗教によって命の捉え方の違いやそれにより弔いの方が全く異なることを学んだ。また、異宗教同士での殺し合いや紛争がなくなることにつれ、異なる文化や考えを持っている人々がどうしたら公平に共存できるのかについて考えを共有した。参加した生徒からは「宗教が一番大切だと言うけれどそれが原因で戦争を起こして家族や友人の命がなくなることは本当に一番大事なことになるのか疑問に思った」等の感想が寄せられた。	本講座は学校設定科目である。履修者は2年次または3年次相当の生徒が大多数である。
8	神奈川県	高1	地歴 ・公民 ・社会	公共と倫理	①出荷（＝屍殺）を控えた牛の“ぼく”が、母牛に会いに行く物語を通して、人間に命を利用される動物（経済動物）の存在を意識させた。多くの生徒の第一印象は、「悲しい」、「切ない」などだった。 ②生徒の印象を読みあげ、自分たちの生活・命が、動物（経済動物）の命の犠牲の上に成り立っていることを、改めて認識させた。生徒の中には、犠牲にした動物のことを思い、余すことなく食べ物をとらなければならないと話す者もいた。 ③若年層の死因の第1位が自死であることを伝え、命の大切さを伝えた。 ④近年、他の動物の命を犠牲にしない生き方（ビーガン、ベジタリアン等）を志向する人が出てきていることを伝えた。	プロジェクターを用い、パソコンのスライドショーで絵本「もうじきたべられるぼく」を、読み聞かせた。生徒個々に、スライドショーの縮小印刷を配布し、物語を振り替えられるようにした。
9	神奈川県	高2	地歴 ・公民 ・社会	公共	命はいつからはじまり、いつ終わるのか。死後はあるのか、生きる意味とは何かなど哲学的問いについて、仲間たちと対話を通じ探究する授業を行った。哲学対話後、感想を書き、共有することで思索を深めた。	大学から外部講師を招いた。
10	神奈川県	高3	地歴 ・公民 ・社会	平和主義・安全保障、国際平和	日本国憲法第9条の精神を、戦後の日本の安全保障政策の変遷、特に湾岸危機以降の海外紛争へのコミットを見ながら確認し、さらに、ロシアのウクライナ攻撃やイスラエルのガザ地区への攻撃などのニュース映像を見て、罪なき市民の生命を守るために、国際社会がすべきこと、日本の政府や自衛隊ができること・すべきこと、メディアからの情報ソースの信頼性などをグループで検討し、プレゼンテーションして共有した。	特になし
11	神奈川県	高1	地歴 ・公民 ・社会	「生命をめぐる問題」	・「出生前診断と生命の選別」 着床前診断や出生前診断によって、誕生以前に性別や遺伝的疾患の有無が診断できるようになったことで、人工妊娠中絶を選別することも可能になる。このことについて、生徒たちに自身の意見や他者の意見を共有し、倫理の在り方を考えさせる。	参考文献 数研出版『高等学校公共』
12	神奈川県	高2	地歴 ・公民 ・社会	様々な差別問題とその対策	憲法の人権問題の具体例として性のマイノリティに関する情報を通じ、多様な価値観や偏見を乗り越え共生社会を構築する大切さを授業を通じて生徒たちの身近な課題として考えさせる授業を実施した。	現社教科書及び資料集

13	神奈川県	高3	地歴 ・公民 ・社会	少年犯罪の実際について	少年犯罪について、生徒にとって身近に感じるかを問い、少年犯罪に対する生徒の認識を確認した。その後、資料を参考に、少年犯罪に巻き込まれるケースや少年事件の手続きについて学習した。生徒は資料の読み取りを通じて詐欺事件などのお金に係る犯罪によって少年院に入院する者が多いことを知り、改めてSNS等を通じた詐欺に巻き込まれないために、甘い話には気をつけること、自分自身を大切にすることを実感することができた。	講師は教科担当者。研修で少年院を見学した際の資料や法務教官からの講義を聴講した内容に基づいて授業を行った。法務省が公開しているデータを読み取ること、少年犯罪の実際について根拠に基づいて学ぶことができた。
14	神奈川県	高2	地歴 ・公民 ・社会	青年期 自己形成の課題	公共の扉において青年期の学習内容を深めるためにライフサイクルについて学習した。取り上げた学習内容は「非認知能力」。生まれたばかりの子どもが懸命に生きる中でどのような力を身につけていくのか。広島県のかえで幼稚園の実践をとりあげて、子どもが生きる力を身につけていく様子を取り上げて教室で考えた。誕生してから乳児期、幼児期、児童期とどのようにいのちが成長していくのかという視点で学ぶことができた。一人ひとりの生徒は自分の幼少期と重ね合わせて学習していたようである。	授業づくりで参考にしたのは 佐藤学, 秋田喜代美, 志水宏吉「教育の再定義 (岩波講座 教育 変革への展望 第1巻)」岩波書店2016年
15	神奈川県	高2	地歴 ・公民 ・社会	「ヒロシマ」に関する平和学習	昭和20年8月6日、人類史上初めて広島に原子爆弾が投下された。当時の写真や映像を見て、原爆がもたらした被害や影響の大きさに生徒は驚いていた。「戦争の記憶を若い人に受け継いでほしい」、という被爆者の思いを聞いて、「何か特別なことをしなくても、1人ひとりが平和について考えて話すことで、その思いがまた他の誰かに伝わるのが良かった」、「誰かが行動すればいいではなくて、自分が行動するように意識する」など、戦争の思いを受け継ぐことや、行動することの大切さを感じていた。また、同じ高校生の平和大使の思いを聞いて、自分たちが平和のためにできることは何かあるのか、考える機会になっていた。授業を通して平和を尊重する心を育成することができた。	参考資料 ①広島平和記念資料館 平和データベース ーヒロシマ・ナガサキ核戦争のもたらすものー ②読売テレビニュース 終戦から77年 原爆の「記憶」を「未来」へ ③読売テレビニュース ウェークアップ ～「戦争」と「いま」～
16	神奈川県	高1	地歴 ・公民 ・社会	人間としてよく生きる	時代のヒロインとして輝きを放ち、後世に語り継がれることとなった人物についてのテレビ番組を視聴し、生徒たちが他者の生きざまを受け止め、そこから「人間として生きることはどういうことなのか」について自分なりに考え、ワークシートにまとめた。	NHK 総合テレビ・BSプレミアムパイロット版ドキュメンタリードラマ (NHKエデュケーショナル制作)
17	神奈川県	高2	地歴 ・公民 ・社会	歴史総合 「立憲国家の成立」	武士が帯刀権といった特権を持っていた時代から、開国して以降、西洋から啓蒙思想が流入し天賦人権思想の国内の広がりにより憲法制定が求められ、生命・身体・思想の自由や権利を保障される時代へと変化したことについて扱った。しかし、当初国民は憲法において「臣民」と位置づけられたことから、生命や自由・平等は権力者の制定する法律の範囲内にあったこと、天皇の臣下とされ、天皇や国家のために命を賭して尽くすことを求められるなど現在の基本的人権と大きく離れていたことを条文の比較を通して考察した。	教科書・資料集
18	神奈川県	高2	地歴 ・公民 ・社会	体外受精、代理出産、安楽死と尊厳死、脳死	人の生命の誕生と終わりについて、現代の技術とそれを利用する人々の実態を踏まえながら、今後の日本の良い制度とは何かを考えた。	ABEMA Prime「安楽死を選んだ日本人」 クローズアップ公共 第一学習社

19	神奈川県	高1	地歴 ・公民 ・社会	平等権	日本国憲法第14条「法の下での平等」にかかわる訴訟として、「尊属殺人重罰規定違憲判決」を取り上げた。最高裁判所が違憲判決を下した後、実際に刑法が改正されるまでに長い年月をかけて国会で議論があったが、その議論の焦点が何であったのかについて講義し、生徒たちは立場によって命の軽重は変わらないということを学んだ。	公民科の教諭が普段の授業の中で行った。
20	神奈川県	高2	地歴 ・公民 ・社会	安楽死・尊厳死について考える	海外では安楽死や尊厳死が法的に認められている場合もあることを知ると驚いている生徒も多かった。最後まで自分らしく生きることができる一方、法的に認めればそれを理由に奪われてしまう命もあるのではないかと自分ならどうするかという視点から生徒が個々に意見を出していた。	生徒各自に海外の事例と日本では法的に認められていない背景を調べた。
21	神奈川県	高1	地歴 ・公民 ・社会	アニメ「めぐみ」視聴	拉致問題を題材とした映像教材であるアニメ「めぐみ」を視聴した。拉致・拘束され、他国で生活せねばならなくなった横田めぐみさんの人権や、亡くなった（とされる）ことについて、生徒同士の意見交換など行った。	
22	神奈川県	高1	地歴 ・公民 ・社会	戦争に関する学習を通して、人権や命の重さ考える	近代戦争通じて、人権や命の大切さを考えさせる授業を行った。シベリア抑留やアウシュビッツ拘留所などで、いかに人々の生活や待遇が虐げられ、命が軽く扱われているかを学び、それについての意見交換や自分の考えをレポートにまとめる活動をした。	
23	神奈川県	高1	地歴 ・公民 ・社会	平和といのち	二度にわたる世界大戦について学習し、戦場はもちろん紛争地から遠く隔たった地域においても、夥しい命が失われ人命が軽視される状況であったことについて考察した。写真や証言・グラフなどの資料を活用して、当時の政治体制や人々の思考を理解しようとした。悲惨な状況や理不尽に対し、生徒は悲しみや憤りをもつなど様々な様子がみられた。各自の感想や意見を共有しながら、いのちや人権が失われた経緯やその問題点を検証し整理する話し合いの中で、反省を現代に正しく活かそうとする態度が見られた。当たり前と考えていたいのちの大切さや人権尊重が、何もせず無自覚なままでは保障されない危険もあることに気づき、積極的な取り組みの重要性を述べる生徒もおり、いのちを大切にすることができた。	山川出版社 歴史総合 近代から現代へ